

コミュニケーション改善を目的とした論文形(かた)研修

株式会社 SRA
阪井 誠
sakai@sra.co.jp

要旨

コミュニケーション改善を目的とした論文形研修の事例を報告する。ソフトウェア開発においてコミュニケーションは重要な問題である。本事例では、開発者の論理的思考力が向上すれば、齟齬が生じにくくなると仮説を立て、論文形のワークショップを実施した。受講者の感想を集計した結果、8名中6名が仕事に役立つ、2名が有効だがさらに訓練が必要であると回答し、研修の有効性が確認できた。

1. はじめに

ソフトウェア開発においてコミュニケーションは重要な問題であり、1975年に書かれたブルックスのソフトウェア開発の神話にもバベルの塔を引き合いに「コミュニケーションとその成果である組織は成功のための条件である」と述べている[1]。

コミュニケーションを適切に行うには、論文を書く際と同じように、問題を把握し、整理し、論理的な構造で伝える必要がある。しかし、多くの社会人は論文執筆の経験がないので、その形(かた、以降「論文形」と呼ぶ)を知らず、冗長な表現、誤解、勘違いなどのコミュニケーションの問題を生じさせていると考えた。

そこで、論文形を中心とした技術文章の研修がコミュニケーション改善に役立つと仮説を立て、仕事に役立つかをアンケートで確認した。

2. 研修の形態と内容

研修は未公開の技術情報を扱うことから社員限定の研修とし、2時間×4回実施した。具体的には、講義を1回、論文形式の概要を1ページ記述するワークショップを、はじめに、本文、概要の3回に分けて実施した[2]。

研修で重視したのはパラグラフライティングなどの形である[3]。論文は結論を先に説明するパラグラフライティングの入れ子構造になっているが、初心者には難しいと思

われたのでワークショップを取り入れた。ワークショップでは作文、発表、受講者の感想のあと、添削指導した。

受講者の感想はあまり多くなく、査読者のつもりで評価してもらおうなどの工夫が必要だった可能性がある。

3. 研修の感想

研修の最後に、仮説の評価を目的として論文形研修の内容が仕事に役立つか感想を書いてもらった。感想を集計した結果、8名中6名が仕事に役立つとし、2名が有効だがさらに訓練が必要であると回答した。

この2名の研修中の表情を見ていると、身につまされているようであった。マネージャには切実で、さらにトレーニングが必要と回答していた。役立つとした6名の中でも文章だけや、問題設定の「やったことの裏返し」などが部分的に役に立つとした2名の受講者は、実践と結びつかず、どこかぴんと来ていない様子が見られた。

4. おわりに

コミュニケーション改善を目的として論文形研修を行った。日本では技術文書の書き方を大学院まで教えられておらず、典型的な形式に整理して報告することに慣れていない社員が多かったからである。

感想を見ていると、研修を通じてパラグラフライティングなど形の重要性はある程度わかってもらえたと考えられる。

今後は追加の研修やOJTを通じて指導したい。

参考文献

- [1] F. P. ブルックス, ソフトウェア開発の神話, p.81, 企画センター, 1977.
- [2] 阪井, 論文の書き方, <http://sakaba.cocolog-nifty.com/sakaba/cat23887317/index.html>
- [3] 石原尚, パラグラフライティングの作法 -書き手にもメリットのある文配置ルール, <http://www.ams.eng.osaka-u.ac.jp/user/ishihara/?p=566>